

# 平成 31 年 大学入試センター試験 本試験 英語 講評

あすなろ学院 西野賢治

<筆記> (総英単語数 4316→4221) (200 点) 昨年並、標準レベル

出題傾向に大きな変化はない。いつも授業を通して話してはいるが、パターン的なことよりも、語順への意識、文脈への意識をしながら英語を取り組んできていれば、苦戦をするような問題構成ではなかった。平均点は昨年と同様の 120 点前後と予想する。読解速度は最低でも 100 語/分以上が必要である。単語本の例文などで速読練習をしてほしい。

第 1 問 発音・アクセント (英単語数 28→28) (14 点→14 点) 昨年並、やや易レベル

昨年同様、A と B の 2 部構成。A は発音問題 3 問、B はアクセント問題 4 問。昨年と同様にカタカナ語が多い。i の 1 コ前にアクセントがあると経験から学んでいた人からすれば、問 4 の delivery や relatively は違うので、そこは失点したかと思う。

第 2 問 文法 (英単語数 563→580) (47 点→47 点) 昨年並、標準レベル

昨年度と同様の出題形式。A が文法・語法問題、B が整序英作文問題、C が対話文中の英文完成問題。

A は語法が多かったものの、文法問題集などを網羅していれば問題ないレベルであった。B は語句整序問題で、昨年と同様に問題数は 3 問であった。これを見たら、この表現やこの語順と思い浮かぶものばかりだった。C は応答文完成問題で、昨年と同様に問題数は 3 問であった。会話の流れから状況を読み取り、解答していく問題である。中には、見慣れない言葉に動揺する人もいたかもしれないが、それ以外の選択肢は、よく見る表現であり、語順などが頭に浮かんでいれば勝負できるレベルであったと思う。

第 3 問 不要選択／対話文主旨選択問題 (英単語数 1108→942) (33 点→33 点) 昨年並、標準レベル

A は不要文選択問題で、昨年と同様に問題数は 3 問。文章の展開がつかめないうま、答えを決めようとすると痛い目に遭うのがこの問題のポイント。B は話し合いに対しての主旨を選ぶ問題。昨年と同様、問題数は 3 問であった。昨年に比べて、本文の語数が約 100 語減った。比較的本文が読みやすかったので、読み飛ばす等のことをしていなければ、正答数を稼げたと思う。

第 4 問 図表読取 (英単語数 997→984) (40 点→40 点) 昨年並、やや易レベル

昨年通りの出題傾向。A で図表内の項目を問う問題と最後の段落に続く内容を問う問題が出題されなかった。B は案内の読み取り問題。設問数は昨年と同様であった。比較的解きやすかった問題であった。

第 5 問 物語長文 (英単語数 814→827) (30 点→30 点) 昨年並、標準レベル

今年は典型的な物語文に戻ったので、昨年より解きやすかった。設問数は昨年と同じく 5 問であった。

第 6 問 論説長文 (英単語数 807→840) (36 点→36 点) 昨年並、標準レベル

設問は A と B の 2 部構成で昨年までと同じ。制限時間を圧迫するような問題ではなかった。

<リスニング> (読上英単語数 1144→1165) (質問選択肢英単語数 575→645) (50 点) 標準レベル

質問や図や選択肢の先読みが勝敗を決する。平均点は昨年より低く 25 点前後になると予想する。

第 1 問 : 短い対話イラスト数字選択(12 点) 問 1 の絵に動揺をしなければ、難しくはない。

第 2 問 : 短い対話応答完成(14 点) 選択肢にやや長いものもあったが、難易度は標準レベル。

第 3 問 A : 対話内容把握(6 点) 問 15 は内容の把握に困った人もいたと思う。難易度は標準レベル。

第 3 問 B : 長い対話図表内容把握(6 点) 聞きながら、情報を整理する練習で差が出た問題。

第 4 問 A : 回想文内容把握(6 点) 昨年とほぼ同じ。状況把握ができていれば問題なかった。

第 4 問 B : 3 人の長い会話内容把握(6 点) 聞き取るポイントが絞れたので、比較的易しかった。